

## 白神ねぎ



病害虫の発生が更に多くなる時期ですので、ほ場を確認しながら適期防除に努めましょう。

### 【病害】

長い干ばつが終わり、6月下旬の降雨以降、湿度高めで推移し、病害の発生が多くなっています。

- ・軟腐病 オリゼメート粒剤、ヨネポン水和剤、スターナ水和剤、Zボルドー など
- ・白絹病 モンカット粒剤、モンガリット粒剤、モンカットフロアブル40 など
- ・べと病 リドミルゴールドMZ、レーバスフロアブル、フォリオゴールド など
- ・さび病 ラリー乳剤、オンリーワンフロアブル、アミスター20フロアブル など

- ・黄色斑紋病斑対策のため、黒斑病（葉枯病）の防除をしましょう。
- ロブラール水和剤、ポリバリン水和剤、テーク水和剤など
- ※夏ねぎの収穫が始まっているので、収穫前日数に注意しましょう。

### 【害虫】

今年は干ばつで推移したため、害虫の発生が早く、多発しています！！

- ・ネギアザミウマ ダントツ粒剤、ハチハチ乳剤、アグロスリン乳剤、ディアナSC など
- ※多発した場合は、系統が異なる剤や遅・速効剤の組み合わせによる混合散布が効果的です。
- ・ネギハモグリバエ リーフガード顆粒水和剤、ベストガード粒剤など

## 白神山うど



### 【摘芯について】

- ・倒伏軽減のため、茎長80~100cmで摘芯する。
- ・本葉12~15枚時（お盆頃）、頂部に花蕾ができた頃が摘芯適期であるが、それ以前に倒伏する危険がある場合は早めに摘芯する。

#### 品種特性

- 紫芽の白：花蕾形成が早い
- 群豊白：わき芽の生育が旺盛
- 東武鯉玉：秋芽が発生しにくい

#### 【摘芯時期の目安】

- 【7/下旬~8/中旬】
- 【8/上旬~中旬】
- 【7/下旬~8/中旬】

愛知坊主：風に揺られると秋芽になる【8/上旬~中旬】

### ○排水対策について

- ・うどは湿害に弱いので、排水不良のほ場では明渠を掘るなどの対策を図る。

### ○病害虫防除について

- ・アブラムシ類、カミキリムシ、メイガの発生を確認し、多発する場合には薬剤で防除する。
- スミチオン乳剤1,000倍（アブラムシ、センノカミキリ、ウドノメイガ）
- カルホス粉剤6kg/10a（センノカミキリ）
- アドマイヤーフロアブル2,000倍（アブラムシ類）

## 白神みょうが



### ＜葉枯病防除について＞

- ・最初株の頂部付近から軟らかい展開葉の新葉に白色斑点が生じ、その後、葉脈方向に拡大し大型白色病斑になります。
- ・比較的乾燥条件で発生しやすく、発生初期からの防除で発病の進展が抑制できます。
- ・防除薬剤は、ダコニール1,000を1,000倍（薬剤200cc）で水量200ℓ/10a散布します。

### ＜根茎腐敗病防除について＞

- ・葉鞘や根茎が侵され、地上部は枯死する。多湿条件では病斑部に薄い白色綿毛状のかびを生じます。
- ・土壌病害で、7月上旬以降に高温・多雨条件が続くと多発する可能性があります。
- ・防除薬剤は、ユニフォーム粒剤は収穫30日前のため、8月に収穫するほ場では使用できませんが、9月以降収穫する場合でユニフォーム粒剤を1回使用した場合のみ、散布できます。
- ・薬剤使用量は、ユニフォーム粒剤を18kg/10a散布して下さい。ユニフォーム粒剤が使用できない場合には、ランマンフロアブル500倍又はオラクル顆粒水和剤2,000倍を3ℓ/m<sup>2</sup>（3,000ℓ/10a）使用して下さい。

## 白神きゃべつ



7月中旬にはほ場の準備をし、また、連作障害を抑制するために土壌処理剤を散布しましょう。さらに、夏場は干ばつ被害になりやすいので、カルシウム等の資材も投入しましょう。

定植時期は7月下旬から8月上旬です。遅くなると気温が低下するため結球しづらくなります。高単価を狙える9月中旬から10月上旬に出荷できるよう定植は遅れないようにしましょう。

定植前には、スタークル顆粒水和剤やプレバソフロアブル5をトレーに灌注処理し、初期の害虫防除をしましょう。気象条件により異なりますが、2週間~3週間は効果が継続します。

定植後は、干ばつ状態になりやすいためスプリンクラーなどの冠水設備の使用をお勧めします。さらに、干ばつに負けないようにするために、定植後には、速効性の肥料を若干量施用し活着がスムーズに進むようにしましょう。

畝間・株間の除草は徹底しましょう。

## アスパラガス



露地栽培では、6月末から立茎（茎を1本残して栄養を蓄える）に入るので、伸ばした茎が折れないように管理しましょう。

追肥の時期にもなりますので、S646やジシアンなどを

生育に応じて散布してください。

「茎枯病」梅雨時期と9月に発生します。被害残渣から発生しますので、前年に発生した畑では注意しましょう。

「斑点病」茎枯病と同じく被害残渣から発生します。風通しが悪くなると被害が大きくなるので注意しましょう。